

皆さん、おはようございます。

ただいまご紹介いただきました、須坂市長の三木正夫であります。本日は1時間という講義でありますけれども、また、皆さんの役に立つようなお話をしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

今日は111人ということであります。須坂市から11人みえているのですけれども、ついこの間、須坂市の11人には同じ資料で話をしましたので、須坂の職員の場合には復習のつもりで聞いてもらいたいと思います。ただ、私の場合には原稿がないので、前回言ったことと違う分野の話をするかもしれませんので、またお聴きいただきたいと思います。

今、小須田所長さんの方から基本のお話がありました。せっかくの機会ですので、同じ地方公共団体の職員として交流等ができればというように思っております。

それから今日、お手元に須坂の「観光パンフレット」と「田中本家博物館のお客様感謝デー」と「花もだんごも蔵開き」というものを配っております。もしよろしければ、こちらの方も来ていただきたいと思います。

私の考え方は、民間の方と行政とが連携をするということが非常にこれから大事だと思っております。通常ですと、例えばこのような形で民間のやる事業を行政がやりますと、行政は公正公平だからそのようなことをすべきではないという意見がありますが、私は、地域振興というものは民間と行政と一緒にやる。ただし、一つだけの企業を応援するということとはしません。

田中本家博物館の場合には財団法人であります。もう一つ、「花もだんごも蔵開き」は遠藤酒造が中心となっておりますが、幾つかの会社・団体・観光協会が連携しております。3日間ですが、大勢のお客さんがみえます。このような形でより多くの市民が連携するということが、これからますます重要だと思っております。

お手元に良い本があって、『地方公務員フレッシューズブック』というものがありますね。これはまだ開いていないですか。開いてみてください。ここにいろいろなことが書いてあるのです。これは株式会社ぎょうせい出版しています。たまに読んでもらいたいと思いますし、最初にずっと通読しておきますと、何か仕事のときにまたこれを頼りにされれば良いと思います。とにかく今のうちに、新規採用時にさまざまなことを知っているということが大事だと思います。

本の読み方なのですが、まず目次を見て概要を捉えて、その中で自分の興味のあるものを読んでいくという方法が良いというように言われております。非常にコンパクトにまとまっている良い本でありますので、読んでいただきたいと思います。

それから、皆さん、「萩の月」というものを知っていますか。宮城県の仙台の銘菓なのです。知っている人？知らない人？、知らない人が若干多いですね。萩の月というのは東北地方では一番売れている菓子で、通常の菓子でも日本では一番売れていると思います。例えば明治や森永などのような大手の、いわゆる製菓会社を除けば、多分虎屋と萩の月が一番売れているのではないかと言われております。

実は昨日の朝とその前の日の夜、その社長さんのお話をお聞きしました。そうしたら、私の今回書いたレジュメとほとんど同じようなことを言っていました。何を言いたいかといいますと、行政も企業も同じだということであります。

まず先に書いてございますが、「楽に楽しく充実した仕事、人生を生かす秘けつ」というものがありますけれども、萩の月の社長さんの会社は菓匠三全という会社ですけれども、菓匠三全に東日本大震災で津波に遭った社員の方がいらっしゃったそうであります。社員の方は、家は流され、そして家族も亡くなられて、自分自身も津波で流されて、たまたま偶然助かったということですが、そのときの第一声が「仕事をください」というように言ったそうであります。

自分が生きるか・死ぬかの際に「仕事をください」と言ったということが、菓匠三全の社長さんの印象に非常に残っておりまして、菓匠三全も東日本大震災があって生産はすぐにできない、そして販売もできないということで、社員をリストラしようか迷ったそうであります。実際に被災企業の中にはリストラをして、失業保険をもらって社員が生活するというようなところも多かったそうでありますけれども、菓匠三全の田中社長さんは、今お話ししました、被災した社員の方が「仕事をください」と言った言葉を聞いて、リストラは絶対しないということを誓ったそうであります。そして、それまでよりも震災後に、逆に売上が増えたそうであります。会社としてリストラをしなくて、そしてなおかつ、社員が一体となって会社を良くしようという気持ちになったというのが、大きな理由だと言っておりました。

そして、その菓匠三全の田中社長さんがおっしゃっていたことは、仕事を楽しくやる方法はどのような方法かということでありまして、仕事を楽しくするには、道徳的なことをしっかり守ってするということが大事だということであ

ります。これからそのようなお話を申し上げます。

「楽に楽しく充実した仕事、人生を過ごす秘けつ」ということですが、これは仕事をサボるということではありません。とかく公務員の場合には時間が決まっておりますので、時間内にももちろん仕事をするわけですが、時間と給料とを考えた場合に、時間のことばかり考えてしまう、給料のことばかり考えてしまうと、残念ながら良い仕事はできません。決して労働基準法、地方公務員法を守らないということではありません。頭の中でそのようなことを考えていると、良い仕事ができないということでもあります。

そして、仕事を「道楽」と書いてございますが、趣味のようなものにするということでもあります。「逃げる獲物より、追いかける猟犬に」と書いておりますが、仕事に追われて毎日、ああ、あのような仕事があって大変だ、今日も行くのが嫌だなというような仕事ではなく、ああ、市民、町民、村民の皆さんにサービスができるなという気持ちで、自分の職場に行けるような仕事ぶりをしていただきたいということでもあります。

菓匠三全の社長さんの一つの目標は、家にいるよりも会社に行きたいというような会社を作りたいということでありました。そこまでは半分冗談だと言っていましたけれども、自分自身はやりがいがあって、そして働きやすい職場作りというのが大事であります。まず何よりも、自分がそのような心構えを持つ。そして、職場の上司がそのような気持ちを持つということでもあります。

先日、須坂市の職員研修会で、私は幾つか嬉しいことがありました。それは採用された新規職員が、分からない仕事等を同じ職場の職員が忙しい中でも教えてくれたということでもあります。頼る職員、頼られる職員、私は両方とも立派だと思います。

もう一つは、この間、苦情があるという話がありました。苦情があったときに、その対応は、前の人が出した仕事であったのですけれども、自分自身が苦情について「申し訳ない」というように謝ったということでもあります。

とかくわれわれの仕事は、他の前の人が出した仕事、他の職場の人が出た仕事について、あの人が出したので自分には関係ないということで逃げがちでありますけれども、それぞれの職場を代表して対応をしていますので、「申し訳ありませんでした」とまず謝ることが大切であります。先日、市の職員と懇談をしたときには、新規採用職員がそのようなことを言っていました。素直に謝ることが大切であるということでもあります。

くどくなりますけれども、楽しく仕事をするということは逃げるということではありませんし、サボるということではありません。サボるということにな

りますと、皆さんが辞められたときに決していい思い出にはならないと思います。

もう一つ、辞める話をしましたので辞める話をします。須坂市長になってからも、市の職員で辞めたいという人が結構います。私は全部引き留めます。若いときに転職するのですでしたらまだしも、ある程度の年になって転職しても、今の職場よりもいい職場に行く確率は極めて少ないです。それよりも、公務員という仕事はやりがいがありますから、公務員の仕事を一生続けるつもりでやった方が、私は退職したときに良いと思います。本当にざっくばらんに申し上げますけれども、退職して、そのあとの人生が市の職員をやっていたときよりも幸せだった人は、本当にごく少数であります。

例えば、何々の資格を取って自分で商売するなど、いろいろ言う人がいましたけれども、結局は実現しません。今の職場を大事にしてやっていく。そして、公務員の仕事というのは非常にやりがいがあるということであります。是非、今の仕事で全力投球をしていただきたいと思います。

県職員のときも、同期で途中で辞めた人は1人だけでありました。あとの人は全部定年退職まで勤めました。それも皆、良い仕事ができたとように考えていました。1人の人は特別な人でありまして、優秀な人で、1年ちょっと勤めて、県職員を辞めて司法試験に受かった人ですから、ほとんど例外であります。

次に、市町村民の立場で、上から目線にならないでいただきたいと思います。気を付けないと許認可事務などをやっておりますと、知らず知らずのうちに上から目線になってしまう可能性があります。

それから、「有償ボランティア」と書いてありますが、公務員の仕事を、私は給料という有償のボランティアであるというように思っております。

その次が、須坂には何もないということですが、今から10年前市長に当選した頃は、「須坂市には何もない」と言う人が大勢いました。しかし、それらの人たちに共通することは、自分の郷土をよく知らないということにあります。多分、皆さんもそれぞれ就職されて住民の人と話すときに、「自分の町には何もない」と言う人がいるかもしれませんが、皆さん自身が自分の地域をよく知って勉強していただければ、それぞれの地域がすごく良い地域だということが分かると思います。是非、自分の地域、郷土を勉強していただきたいと思います。郷土を知る郷土知は郷土愛に通じるということでもあります。

そして大事なことは、評論家・批判者ではなくて、われわれは自らの実践者であるということでもあります。よく色々な講演等があります。どこそこの観光地は素晴らしい、どこそこの福祉行政は素晴らしいなど、そのような講演がた

くさんあります。しかし、それらの講演というものはほとんど役に立ちません。なぜかといいますと、自分でやっていないからであります。

私が萩の月の田中社長の話に感激しましたのは、私は田中社長の話を聞くまでは、萩の月というものは、今申し上げましたように、東北で一番売れている菓子でありますので、もう江戸時代から続くような、いわゆる銘菓だというように思っておりました。しかし、お聞きしますとまだ六十数年ということであります。そして、六十数年の間にお菓子の主な種類を7回変えているそうであります。7回変えていて、今売れている菓子であってもこれから売れなくなる可能性があるからといって、常に研究して売れるように新しい菓子を出す。そして、あのような会社で研究所も持っているということであります。

何を言いたいかといいますと、いろいろな実際に体験している人の話を聞くということが、非常に大切だということであります。いろいろないい講演会がありますけれども、そのような講演会を聞いていただきたいと思います。

東京に STARTS という会社があります。東京マラソンや卓球の世界選手等のユニホームやゼッケンに「STARTS」と青と白の字で書いてございますが、スタートの村石会長さんという方は須坂のご出身で、商業高校を出られて自分一代で会社を作った方です。その方とやはりお話しすると、非常に勉強になります。

田中社長も苦労されました。そして村石会長も苦労されましたが、お二人から期せずして同じことを聞きました。苦労したから人の優しさ、そして人への優しさができるということでもあります。

村石会長さんの STARTS も社員を非常に大切にしている会社でありまして、例えば社員の人が退職するということになると、みんなで引き留めるそうでもあります。そのような素晴らしい方のお話をお聞きするということは大事であります。

今、『日本経済新聞』でトヨタ自動車の名誉会長さんの「私の履歴書」というものが文化欄に出ております。是非、またお読みいただきたいと思いますが、これは、先日、須坂市の研修会でも申し上げたのですけれども、豊田章一郎名誉会長さんが須坂で講演をしてくださいました。豊田章一郎名誉会長さんが講演すること自体が極めて珍しいですし、須坂という一地方都市で講演することも珍しいのですが、そのときに、講演会の直前までパワーポイントがこれで行くのかどうなのか、社員のひとと研究されたそうでもあります。

世界のトヨタの社長・会長をされた方が、そのくらい熱心に講演に取り組ま

れたということと、もう一つは、当時アメリカの自動車業界が極めて不況でありました。一緒に同席された方が、「アメリカの自動車業界が不況ですから、日本の自動車業界はチャンスですね」ということを言われました。そのときの豊田章一郎名誉会長さんのお言葉はどのような言葉かといいますと、「自動車業界全体が良くならなければいけないのです」ということであります。つまり、自動車を利用する人にとってメリットがある。その人を第1に考えるということでありまして、自分の会社だけ良くなっても、それで自動車業界全体のレベルアップにならなければ意味がないということでもあります。

私どもも仕事をしておりますけれども、須坂市の中には今「いいねカード」というものがあります。それはどのようなものかといいますと、同じ職員、そして市民の皆さんから、「この職員は一生懸命やっているね」というフェイスブックの「いいね」と同じですけれども、「いいね」というカードを出してもらいます。

このようなことをやるに際して、普通の行政の中では、良い人を褒めるとそれ自体が問題になるという考え方があります。他にもやっているのに、その人だけ褒めるのはどうなのかという考え方があります。これがあとで申し上げる固定概念であります。

須坂市は桜の市の指定天然記念物がたくさんあります。この桜の指定天然記念物の指定をするに際しても、私が「指定をしよう」と言いましたら、他にも桜がたくさんあって、指定しないところから苦情が来るということでありました。私は苦情が来たときに、もしその桜が指定するのに適していれば指定すればいいという考え方でありましたので、指定をしました。

「いいねカード」といい、それから桜の天然記念物の指定をしても苦情は来ませんでした。つまり、恐れていて、何かがあるのではないかとということだけ心配して仕事をしがちなのが、公務員であります。それはなぜかという、今まで減点主義だからであります。なかなか職場の風土を変えるということは難しいですけれども、やきもちを焼かなくて、いい人を褒める風土づくりというのは非常に大切だと思っております。若い皆様は、ですから、評論家・批判者ではなく、自分自身が実践者ということでお願いしたいと思えます。

「笑顔と挨拶、約束時間を守る」。これはもう基本中の基本ですが、実際はなかなかできません。須坂市が今やっておりますものは、「日本一の笑顔とあいさつの市役所づくり」であります。これも最初提案したときには「こんな成人になってから笑顔と挨拶は言われてやるようなことではない」というように言われましたけれども、実際は笑顔と挨拶ができません。そして笑顔と挨拶をする

こと自体が照れや、自分自身の格好が悪いなど、そのように思っている人もいますけれども、実際は笑顔と挨拶をした方が自分にとってもメリットがあります。

皆さんも、是非、笑顔と挨拶を大切にしてもらいたいと思います。そして、笑顔と挨拶をすれば、皆さんが結婚されて子供ができ、孫ができたときに、その家庭は笑顔と挨拶があるだけで違います。是非、その辺をお願いしたいと思います。

次は高い目標ですが、「チャレンジ、苦勞がよき経験」と書いてございますが、色々なさまざまな苦勞はすべて自分の経験になります。多分、皆さんが辞められたときに、どのような思い出がありますか、良い思い出は何ですかということをご自身に尋ねたときに、それは苦勞して成し遂げたことだということに思っています。

そして、ここには書いてございませんが、必ず朝の来ない夜はありません。今、大河ドラマで山中鹿之介が出ておりますが、皆さん若いですから分かりませんが、山中鹿之介の有名な言葉、この間も大河ドラマで言っていました。「七難八苦我に与えよ」という言葉が残っておりますけれども、どれほど大変なことでも解決ができます。オリンピックに出るといようなことはまた別として、普通の仕事でしたら、普通の人でしたら、努力すれば解決をします。是非、めげないでいただきたいと思います。悩んでもいいことはありません。ぜひ道は開けるということを信じていただきたいと思います。

一つ本を紹介します。『道は開ける』と『人を動かす』という本を若いときに読めば、すごく参考になると思います。『道は開ける』、『人を動かす』は別の本であります。ブックオフ等へ行きますと、最近は分かりませんが、昔は1冊100円で売ってました。今でももしかしたら売っているかもしれません。非常に役に立つ本です。聖書の次に読まれていると言われていた本です。カーネギーという方が書いたものであります。

それから、このアンダーラインをしてあります「井の中の蛙にならない」というのは、是非、お願いしたいと思います。どうしても自分の地方公共団体だけを見ますと、その枠からはみ出て考えるということがだんだんできなくなります。先ほど小須田所長からも話がありましたように、さまざまな研修がありますので研修に参加をしていただきたいと思います。

須坂市はできるだけ研修に参加するようにしております。そして、研修に参加する機会を与えるのは、部課長の責任だということをお話しております。自ら手を挙げて「この研修に行きたい」ということはなかなか言えません。それを

部課長が、係長が「何々さん、研修に行ってきたらどうか」と言うことが大事であります。

これは私自身の県職員の時もそうでありました。私は大変ありがたいことに、上司に恵まれて、県職員で初めて、自分たちでいろいろな事業を考えることの第1回目に参加させていただきました。それから、当時、産業能率短期大学の通信教育等もありましたので、それらも受けさせてもらいました。海外研修にも行かせていただきました。今、須坂市ではできるだけ海外研修に行くようにしておりますけれども、いろいろな経験を若いときに積むということが非常に大事だというように思っております。是非「井の中の蛙」にならないようにお願いしたいと思います。

次は「人間力を磨く。若い感性を生かす」ということであります。皆さん、それぞれ素晴らしい顔をされておりますから、今の気持ちでずっと成長されると思います。是非、今の若い感性を生かしていただきたいと思います。

先日も市の研修でお話ししたのですが、私は「恋するフォーチュンクッキー」というのを知りませんでした。皆さんは知っていますね、AKBの。知らないこと自体が極めて問題でありまして、皆さんが考えていることと私の考えていることの違いがあるということになる。それは、政策にも表れてくるということでもあります。皆さんのような若い感性の人が考えたものを政策に生かしていくということが、若い人たちの政策作りに極めて重要だということでもあります。

あと、インターネットは皆さんされるとは思いますけれども、もし分からない人がいたら早く覚えた方がいいと思っております。

次は、これは「良いリーダー。上司とフォローアップ」ということなのですが、皆さんはまだまだ若いですので、これから上の人と連携していい仕事をさせていただきたいと思えます。

「好ましくない上司の例」というのを挙げます。県職員の時々の新規採用のときだったのですけれども、よく飲み会がありまして、飲み会の会費を集める係だったのです。いい上司の人は会費を集めていっても「ああ、ご苦労さん」とお金を出してくれるのですけれども、悪い上司の人は、自分で飲んだにもかかわらず会費を出すことを嫌がる人がいるのです。だから、金払いの悪い人というのは、あまり良い上司とは言えません。色々な人がいますけれども、自分がこの人のようにになりたいという人にはなっていて、なりたくないという人には反面教師としてならないようにするのが大事だと思います。

「積善の家に余慶あり。積善経営、健康づくり」と書いてありますが、積善というのは善を積み重ねる、良いことを積み重ねるということです。先ほどお



話ししました、STARTS の村石会長さんや、萩の月の田中社長さんもおっしゃっているのは、小さなことの積み重ねが大事だということでもあります。とにかく派手なことや目立つことをすることが良い世の中のような雰囲気がありますけれども、本当に着実にやるということが大事であります。健康作りと同じであります。ですから、皆さんも派手なことではなく地道なことを、つまらないかもしれませんが、積み重ねていただきたいと思います。

「天網恢恢（てんもうかいかい）、疎にして漏らさず」、お天道様は見ているということなのですが、今日ですか、昨日ですか、新聞にも出ていましたが、地方公務員の不祥事というものがよく出ます。飲酒運転、酒気帯び、公金横領、公文書偽造、それから今日出ていたのは乱暴を働いた暴行だったと思いますが、そのような事例が出ております。

同じようなことをしても、公務員ですと新聞に載ります。一般人ですと、新聞に載りません。普通は載りません。もう一つは、公務員ですと懲戒免職になる可能性が極めて高いです。懲戒免職というのは原則的にももちろん首になりますけれども、退職金も出ない可能性もあります。それから、社会的にも名前が知られますので大変であります。とにかく自分の心にやましいことはしないということでもあります。

ここに公文書偽造と書いてありますが、法律を学んだことがある人。手を大きく挙げてください。はい、ありがとうございます。法律を学んだことのある人は大丈夫なのですけれども、公文書偽造というのは、例えばこのような普通の文書は問題ないのですけれども、権利義務に関する文書等について、あとで間違っていたからといって消して直したりすると、公文書偽造になります。

例えば会計検査等があつて、そのために書類を直すなどというようなことをして、その場しのぎをすると、公文書偽造の犯罪になります。例えば住民基本台帳や戸籍などを扱っている人も注意してもらいたいと思います。直すとすればきちんと決裁を取って、見え消しにして、そして、訂正印をしてやるということでもあります。よくありますのは、砂消しで消してその上へ字を書くというのがありますが、一見見た目はきれいですけれども、それはまずいことでもあります。請求書なども同じであります。とにかく元のものには手をつけない。つけるとすれば、きちんと上司に相談して、訂正印を押して、そして見え消しでやるということが大事であります。

ほとんどこのような形式犯が実際はすごく、何か問題になったときにはなりますからご注意くださいと思います。

次は「幸運の神様は常に用意された人のみに訪れる」。これはフランスのル

イ・パスツールが語った言葉でありまして、信州大学の遠藤守信先生というノーベル賞の候補にも挙がっている先生が、いつも座右の銘にしている言葉であります。

これは、常日頃、準備された人にだけ幸運は訪れるということではありますが、遠藤先生もフランスで研究をしているときに偶然発見したものがナノテクであります。ずっとそれまでナノテクのことを考えていたことが、発見につながったということでもあります。皆さんも同じでありまして、仕事に限らず、常にこのようなことをしたい、このようなことをやろうというように思っていることが、幸運に恵まれるということでもあります。これはすべてのことに通じます。

先ほどの萩の月のお話を申し上げますと、萩の月が東日本大震災に遭って会社をどうするか非常に悩んでいたときに、東京へ行っていろいろなところを回ったそうであります。もう東京自体も計画停電をしていてどうなるか分からないようなときに、たまたま東京のあるデパートに行きましたら、大きく看板が出ていまして、「東日本大震災を支援する」ということが書かれていたそうであります。それを見たときに、そこのデパートの責任者の人にお話に行きまして、「ああ、じゃあ、すぐ持ってきてください」ということで売ることができたということでもあります。もしそのときに東京へ行かなかつたら、また、いろいろなところへ顔を出していなかったら、そのデパートにも当たらなかったということで、あきらめて帰ろうかと思ったときにそのようなことにあったということでもあります。

もう一つは、萩の月は機内食で販売して一躍有名になったそうではありますが、あるとき、仙台空港にたまたま行ったときに、機内食を扱っている日本航空の関連会社の方とお会いしたそうであります。そして、そのときに「是非、うちの会社へ来てください」ということで、ほとんど強制的に車に乗せるようにして工場へ来て、いろいろなお菓子を見てもらったそうであります。しかしながら、いずれの菓子も「だめだ」というように言われたそうであります。そして最後の最後に、「今、研究所で研究している菓子を召し上がってください」と言ったところが、「この菓子は今まで食べた菓子の中で一番おいしい菓子だ」ということで、それから萩の月を機内食で販売するようになったそうであります。

今お話ししましたように、常に準備していて、次の菓子として研究していた萩の月が機内食で使われるようになったということでありまして、正に、常に用意された人にのみ訪れるということでもあります。この言葉は私も常に頭の中に入れておくことでもあります。

今、豊田章一郎さんのお話はしましたので、小倉昌男さんの話をします。クロネコヤマトを知らない人はいませんね。クロネコヤマトの小倉昌男さんは辞

められたあと、ヤマト福祉財団という福祉の仕事の財団の理事長をされてきました。自分の私財を基金にして財団を作られたのですけれども、お願いごとがありまして、県職員のときにヤマト福祉財団にお伺いしました。本当に小さな中に財団がありまして、その奥の小さなところに小倉昌男さんが理事長でいらっしゃいました。

小倉さんというのは自分で宅配便を考えた人でありまして、それから郵便局との関係で宅配事業がなかなか難しいときに、規制緩和で戦ってやるようになった人です。非常に世間的には意志の強い、そして、すごい人だというイメージがありましたので、私も半分こわごわお会いしたのですけれども、そして、お会いして話が終わったあと、私とその小さなところ、部屋といっても本当にカーテンのようなもので仕切ったぐらいのものでしたけれども、そこから出ましてエレベーターホールに向かいましたら、小倉さんは1人で杖をつきながら私のあとを付いてこられました。私は、エレベーターホールの近くにトイレがありましたのでトイレにでも行かれるのかと思いましたが、エレベーターホールで私が乗るまで見送ってくださいました。

あのようなすごい人が私を見送ってくださったことに感激しましたし、なおかつ、県の東京事務所では会議がありますと、例えば、初めて東京事務所へ来たときも「皆さん、今日はお世話になります」という大きな声を出して直接仕事に関係のない人にも声をかけられました。そして、去るときにも皆に声をかけられました。それほど気配りをされる方です。

一方、すごい官僚組織等に抵抗しながら、そのような優しさ等が秘められているというのはなぜかといいますと、先ほども話しましたように、消費者、私どもでいいますと住民の立場に立って物を考えるかどうかということになります。

鎧塚俊彦さんと川島なお美さんについてお話ししますと、鎧塚さんと川島なお美さんも須坂へ再三来ていただいています、川島さんのブログや鎧塚さんのブログで書いていただいております。川島なお美さんのブログを須坂で引いていただきますと5件ぐらいヒットすると思いますが、先日、川島なお美さんが手術をしたということが週刊誌やテレビで取り上げられました。

実はその手術のあと、須坂へ来てくださったのですけれども、そのときは「この間手術をしたから、あまりワインは飲めないんです」と言いながら、普段よりはちょっとしか飲まなかったのですけれども、飲まれました。それほど大した手術ではないのだと思っていましたら、あのような形で出たのですけれども、お見舞いの手紙をお送りしました。それと併せて、はちみつを送りました。そうしたら、携帯に電話がかかってきまして「いや、書かれているけど、大した

ことはありません。三木さんと会ったときに元気だったのと同じです」という話でありましたけれども、この二人もすごくいつも謙虚で感謝をされる方です。

幾つか例を申し上げますと、例えば須坂に須坂技術学園という障がいを持った人の福祉施設があります。そこでクッキーを作っておりますけれども、そのクッキーを鎧塚さんがコーディネートして東京の渋谷のヒカリエで販売してもらっています。そして併せて、須坂のPRもしてもらっていますけれども、地域を元気にしたい、農業を元気にしたい、そして福祉に貢献したい、それから東日本大震災を応援したいということでもあります。

鎧塚さんと小倉昌男さんの共通点がありまして、二人とも福祉に力を入れているわけですが、是非、また東京へ行ったら寄っていただきたいと思いますが、渋谷のヒカリエの鎧塚さんのお店、それから小倉さんの場合にはまた東京でパンをやっておりますけれども、障がいのある人が作ったから売るといってお情けの製品は売りませんということでもあります。逆に、普通の人の方が作ったよりも立派な商品でなければ売らないというのが、小倉さんと鎧塚さんの考え方です。

本当に福祉のことを考えた場合には、そのようなお情けではなく、その人たちが自分自身でしっかり生活していけるようなものを売り、収入を得るということでもあります。とかく同情のようなことになりがちですが、同情ほど本当は人の尊厳、プライドを傷つけるものはないわけでもあります。

鎧塚さんは須坂技術学園に来て大変厳しいことを言います。しかし、それが須坂技術学園のクッキーなどのお菓子のレベルを上げることになるわけでもあります。そして、一生懸命やっている方々は、そのようなアドバイスをもらったり、渋谷ヒカリエで売ってもらえるということが、自分たちの誇りにもなり、尊厳にも通じるということでもあります。

私どもはそれぞれ住民の人といろいろな面につきあいますが、住民の目線に立つというのは決して施しをするというものではありません。その人に合ったものをするというのが、私は大事だということに思っております。

もう一つ、「多くの市町村職員と知り合えた喜び」と書いてありますが、私は、県職員をやっていて一番良かったのは、いろいろな市町村の職員と知り合えたことでもあります。県職員と市町村職員の一番の違いは何かといいますと、クレームや、いろいろなものを市町村の職員はもろに受けます。そして、県や国への苦情も受けます。一方、住民の人の喜びや感謝を直接受けるのも、市町村の職員の皆さんであります。

小倉昌男さんと村石 STARTS の会長さんの共通点があります。それは何かとい

いますと、お二人は地方公共団体のような仕事をしたいということであります。今、STARTS では、ただ単なるマンションではなく、そこに住む人たちがさまざまなことをできるマンションを造っております。老人福祉施設や特別養護老人ホームなど、いわゆる行政がやるようなことをやっております。

小倉さんもやはり同じでありまして、考え方は基本的に地方公共団体のような喜ばれる仕事、そしてクロネコヤマトをやって一番良かったのは、荷物を配達したときに、その配達先の家族の人から直接お礼を言われる喜びだということをおっしゃっています。地方公共団体の職務にあたる我々にとって一番大切に喜びなのは、私は直接お礼を言われたり、感謝をされるということであります。そしてクレームがあったとしても、そのクレームを宝としてやっていくことが大事だと思っています。

信州須坂に「弁天さんの桜と梅を守る会」というものがあります。あまりまだ知られておりませんが、多分私は日本で一番素晴らしいしだれ桜だというように思っております。なぜかといいますと、自分たちで営々と何百年も守ってきており、行政には頼っておりません。そして、桜と松が一緒にあります。そして、昔、蚕が盛んなときの蚕神様があります。なお、弁天池、弁天島、そして小さな神社が、本当に小さな神社があります。そして振り返ると北信五岳や須坂の山村風景が眺められます。花は桜と梅とレンギョウと一緒に咲きます。

その方たちは桜を多くの遠くの方に見てもらうことがまず喜び、そしてその桜を植えてくださったご先祖様に感謝するということでもあります。お金は他のところで使ってもらえばいいということではありますが、そのような思いの桜であります。是非皆さん、弁天さんの桜、須坂でも一番、道が分かりにくいところがまた良いのですけれども、桜であります。

そして、その桜を守る人たちが、今申し上げましたように、先祖に感謝する。そして遠くから来る車を見れば見るほどうれしい。わざわざ遠くから見に来てくださることがうれしいということではありますが、自然とおもてなしの気持ちがありますので、先日お聞きしましたら、プロのカメラマンの人が、これほどおもてなしをしてくれて、そのお返しで自分の撮った写真を額に入れて寄贈したいという話がありました。私は、この弁天さんの桜と梅を守る会と同じように私どもの仕事はそのような仕事だというように思っております。

あと、「健康長寿の礎。須坂市保健補導員制度」についてお話しします。長野県は男女とも平均寿命が日本一になりました。その大きな要因は幾つかありますけれども、その一つに保健補導員制度というのが言われております。これは須坂市の保健師が、須坂市に合併する前の村ですけれども、その保健師が非

常に頑張っている姿を見て、農家の女性の奥さん方が、「あの保健師さんが頑張ってるから自分たちも頑張ろう。一緒に手伝おう」と言って始めたのが保健補導員制度でありまして、健康づくりのボランティアであります。

それがきっかけで、今は全国に保健補導員制度、名前は変えてありますけれども、広がってきました。長野県でも76市町村にあります。これも住民の皆さんが保健師を助けようという気持ちであります。これは須坂市だけの例ではなく、いろいろなところにこのような住民の皆さんのパワーというものがあると思います。

今日、保育士さんが多いもので少し保育の話をしてします。この間も話したのですけれども、小学校の卒業式に出ました。非常に感激しました。その話を民生委員さんにしましたら、「市長、保育園の卒園式の方がもっと感激するよ」と言われました。そして「保育園の卒園式はハンカチを3、4枚持っていかなければいけないよ」と言われました。

なぜかといわれますと、このようなことだそうであります。小学校の確かに卒業式も感激します。素晴らしいのですけれども、保育園の卒園式は短期間で子どもがこれほど成長するということがはっきりと分かるそうであります。従いまして、親も、この間よく成長してくれたな、生まれたときは心配だったけれども、ここまで育ててくれたなという思いと保育士さんの思い、そして、それらを見ていて子どもも「お母さん、お父さんが頑張っている。涙を流している。保育士さんが涙を流している」と見て、やはり子ども自身も何かしら涙を流すということで、保育行政というのは極めて大事だというように思っています。

これからやりがいのある仕事の中で、ますます皆さん、健康に留意されて頑張ってくださいと思います。

本日はご清聴ありがとうございました。